

平成25年度 学校教育指導の重点 「成果と課題改善のポイント」

平成25年12月26日
福島県教育庁県中教育事務所学校教育課

目次

1	学校教育指導の重点の取組	1
2	特別支援教育	3
3	幼稚園教育	4
4	小中学校教育	5
(1)	各教科等	
①	国語	5
②	社会	5
③	算数・数学	6
④	理科	6
⑤	生活	7
⑥	音楽	7
⑦	図画工作・美術	8
⑧	体育、保健体育	8
⑨	家庭、技術・家庭	9
⑩	外国語（英語）	9
⑪	道德	10
⑫	外国語活動	10
⑬	総合的な学習の時間	11
⑭	特別活動	11
(2)	各種教育	
①	生徒指導	12
②	キャリア教育	12
③	図書館教育	13
④	人権教育	13
⑤	環境教育	14
⑥	情報教育	14
⑦	国際理解教育	14
⑧	へき地・小規模学校教育	15
⑨	健康教育	15
⑩	防災教育	16
⑪	放射線教育	16

1 学校教育指導の重点の取組（要請訪問を通して見える成果と課題）

県中の最重点事項等について、説明や助言・支援に努めてまいりました。そのうち、「確かな学力」の向上に関して授業の改善・充実の観点から、学校訪問等をとおして見える成果と課題についてまとめました。

1 基礎・基本の定着と活用力の育成を図る授業の設計・実施・評価

成 果

わかる・できる授業づくりを目指した授業実践が多く見られるようになりました。

- ねらいとまとめの整合が図られた授業実践
- 教材・自己・友だちとの対話を大切にした授業実践
- 温かな人間関係を基盤とした授業実践
- 全国学力・学習状況調査結果に基づく授業改善

課 題

主体的な学習活動の設定や学習内容の確かな定着を図った手立てが大切です。

- 指導技術（発問・指示、ノートと板書、机間指導と意図的指名等）
- 授業構成力（各段階の意味付けと精査）
- 算数・数学の授業の質的改善
（適用の時間の確保、ねらいの明確化、まとめの活動の確保）
- 今、求められている学力についての共通理解と共通実践
（全国学力・学習状況調査問題の分析と教材としての活用）
- 算数・数学ジュニアオリンピック問題や定着確認シートの活用方法

2 思考力・判断力・表現力等の育成を目指した言語活動の充実

成 果

ねらいに迫るために、意図的に言語活動を取り入れた授業実践が見られました。

- 児童生徒や地域の実態・状況、昨年度の課題、重点目標や具体的な実践事項を踏まえ、目指す子どもの姿、確かな学びに関する意義付けを行いながら、言語活動を意図的に学習過程の中に位置付けている授業実践

課 題

児童生徒が自覚する学習活動に取り組むための意味付けや仕掛けの工夫が必要です。

- 単元で身に付けさせたい力の明確化（単元指導計画・評価計画）
- 導入時における本時の学習への意欲付け・意味付け
- 児童生徒が自覚的に学習活動を行うための教師の仕掛け
 - ・ 発問・指示の吟味と精選
 - ・ 子どもたちの考え（よさ）をつなぐ机間指導と意図的指名
 - ・ 自分の考え（の変容）やわかったこと（わからないこと）が明確になるノートづくり（ワークシート活用）と板書計画

3 定着確認シートの実効ある活用

成 果

サンプル調査校以外の学校でも、活用の仕方を工夫する事例が増えています。

- サンプル調査校（域内14校）での実践
- サンプル調査校以外の学校での取組
 - ・ 活用週間を位置付けて計画的に実施している小学校
 - ・ 補充・発展学習として活用している小学校
 - ・ 「やりっ放しにしない」で全校体制で活用する小学校

課 題

学校の実状に応じて必要な部分を取り出して活用するなど、できるところから進めることが大切です。

- シートを活用したショートスピンのPDCAの構築と徹底実践
 - ・ 教師の指導を入れる場面の設定
 - ・ 正答者数の入力（全校体制で）
 - ・ 授業や課外授業、家庭学習等での活用（ピンポイントでの活用～学年、教科、単元、弱点補強等々）

* 「平成25年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた学力向上対策プラン」による実践

4 指導法の改善に向けた校内研修の推進

成 果

各学校とも自校の課題解決のために、積極的に校内研修に取り組んでいます。

- 初任者研修の機会を生かした授業研究会を実施する小学校
- ICT活用をテーマに全員で授業実践をしている中学校
- GTやボランティアを活用し、授業公開をしている小中学校
- 中学校区で授業研究会を実施している小中学校
- ユニバーサルデザインによる校内研修を推進する小学校

課 題

全校で共通して実践できる基本的な指導技術の習得を目指した研修や授業実践が必要です。

- 基本的な指導技術の習得に関する校内研修
 - ・ 管理職による定期的な授業参観と具体的な指導
 - ・ 共通のチェックシートの作成と活用
 - ・ 授業改善ハンドブック等を活用した授業実践
 - ・ 教材研究と週案の活用

以上が訪問等から見える成果と課題です。県中の各取組の成果と課題については、以下の各教科・領域・各種教育等の中で記載しました。

2 特別支援教育

特別支援教育（幼・小・中）

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
<p>【交流及び共同学習】</p> <p>1 障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒相互の触れあいを通して、豊かな人間性をはぐくむ。</p>	<p>○ 児童生徒の発達段階に応じたワークシートの準備や学習環境の工夫が見られました。</p> <p>○ 児童生徒の実態に応じて、授業の中で障がいのある児童生徒が活躍できる場面を想定し、意図的な発問の精選や発表の場を用意していました。</p> <p>◆ 授業のねらいを焦点化し、児童生徒に「身に付けさせたい力」を明確にした授業の設計が必要です。TTの実践においては、授業づくりの段階から、児童生徒の実態を踏まえ、指導目標や内容を共有できるよう、話合いの充実や評価の充実が求められます。</p>
<p>【通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする幼児児童生徒の教育】</p> <p>1 校（園）内の支援体制を整備し、全教職員で支援する。</p> <p>2 「個別の指導計画」等を作成・活用した個に応じた指導を進めるとともに、指導法の工夫を図る。</p> <p>3 障がいの特性と生徒指導上の問題との関連を考慮した指導の工夫を図る。</p> <p>4 「個別の教育支援計画」を作成・活用して学校、家庭、地域及び医療等関係機関との連携を図る。</p>	<p>○ 校（園）内で特別支援教育コーディネーターが中心となって、校内委員会、ケース会議等の開催が多く設定されています。その中で児童生徒の実態把握を行い、具体的な支援策を検討しています。</p> <p>◆ 校内委員会やケース会議での話合いが、対症療法になってしまうことが多く、中長期的な目標の設定及び学校間や関係機関をつなぐ、「必要な支援」の継続が難しい面も見られました。特に困難な事例においては、関係機関を含めたケース会議を実施するなど、地域教育相談推進事業や特別支援学校のセンター的機能を活用することが大切です。</p> <p>○ 発達障がい等の診断を受け、継続的な支援を受けている児童生徒については、「個別の教育支援計画」に基づいた丁寧な指導支援が展開されていました。</p> <p>◆ 不注意傾向の特性を持った児童生徒の実態把握や特性に応じた指導支援が進まずに、生徒指導上の課題になってしまうケースや、個別の教育支援計画等が作成されずに、支援の継続も難しくなっているケースが増えています。また、十分な情報提供が行われないため、中・高での不登校や進路変更につながるケースも見られました。</p> <p>○ 各校（園）において教育相談等を実施し、保護者のニーズを大切にした指導支援を行っています。また、教育相談で話し合われた内容を「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に取り込んで活用するケースも増えています。</p> <p>◆ 問題行動等が起こった時に連携をはじめるケースでは、保護者との関係が難しくなることが多いため、日頃から教育相談をする機会を設定するとともに、複数回の教育相談を重ねていく必要があります。</p>
<p>【特別支援学級・通級指導教室】</p> <p>児童生徒の障がいの多様化を考慮し、一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、それに基づいた指導の充実を図る。</p>	<p>○ 「個別の指導計画」に沿って授業を展開し、教材・教具の工夫や、児童生徒の主体性を大事したかわりが多く見られました。</p> <p>◆ 指導目標や指導内容が児童生徒の実態に合わない授業も見られました。ケース会議や校内委員会において多面的な視点からの話合いを充実させるなど、児童生徒理解を深めていく必要があります。</p>

3 幼稚園教育

幼稚園教育

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 幼児が環境に主体的にかかわり、発達の時期にふさわしい生活が展開できるように、長期的見通しをもった指導計画を作成する。	○ 各園では、小学校と互いの保育や授業を参観したり、参観後に協議したりする場を設け、互いの発達や連続性を考慮した指導計画を作成しています。 ◆ 直接的にかかわるだけでなく、幼児期と児童期の発達を踏まえて、互いの教育活動をつなぐ教育課程や指導計画について、さらに理解を深め、具体化していく必要があります。
2 一人一人の活動の場面に応じて、教師が様々な役割を果たし、幼児の主体的な活動が確保されるような保育の展開に努める。	○ 環境を整え、放射線の影響を少なくし、自園でできる地域の「ひと・もの・こと」とかかわる体験的な活動を工夫した保育が見られました。 ◆ 幼児の主体性を育てていくために、幼児自身がつくり出す余地を残し、幼児が継続してかかわることで変化していくといった環境構成を工夫していく必要があります。
3 幼児の育ちつつある面やよさに目を向けた評価を行う。	○ 日々保育を振り返り、幼児の実態を捉えながら、保育の充実や改善に向けて積極的に話し合ったり、週案や日案にしっかりと記録したりする姿が見られました。 ◆ 他園との交流保育や要請訪問の活用、研修会への参加など、外部の人間も含めた研修や意見交換により、幼児理解や保育について多面的・多角的に捉える必要があります。

① 国語 (小・中)

② 社会 (小・中)

– 6 –

③ 算数・数学

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、数学的な見方や考え方の育成を図るために、指導計画を改善する。	<p>○ 小中とも既習の内容を基に解決するような課題を設定するなど、児童生徒の実態と系統性を踏まえた授業が計画されていました。</p> <p>○ 問題解決の後に、適用問題や発展問題による練習の機会を設定する授業が多く見られました。</p> <p>◆ 計画されていたまとめや練習の時間がしっかりと行えない授業も多く見られました。まとめの段階を意識した授業構成が課題です。</p>
2 主体的な学習を通して基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、数学的な見方や考え方の育成を図るために、指導の工夫改善に努める。	<p>○ 言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したりする算数的活動、数学的活動を設定し、十分に時間を確保した取組が見られました。</p> <p>◆ 振り返りやまとめについては、内容及び時間の確保に改善の必要がありました。めあてとまとめの整合性を図り、以後の学習の活用につながる、児童生徒自身によるまとめを工夫し実施することが大切です。</p>
3 よさや可能性を見いだし、伸ばす評価を工夫する。	<p>○ ノートの充実、自己評価の日常化等、児童生徒の具体的な姿から一人一人の学習状況を把握し、評価する取組が見られました。</p> <p>◆ 評価の材料となる自己評価や算数日記等が必ずしも授業のねらいと整合性をもち、教材のもつ価値に触れるものとなっていないのが課題です。授業の終末を迎え、児童生徒が学習内容を振り返り、その達成状況や変容を自覚できる授業のまとめを工夫する必要があります。</p>

④ 理科(小・中)

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 観察、実験に基づく主体的な活動を重視した指導計画を作成する。	<p>○ 要請訪問においては、観察・実験を取り入れた授業が多く見られました。小学校では、理数教育の充実を意識し、理科の授業に積極的に取り組む教員が多く見られ、指導力向上を目指す教師の意欲が感じられました。</p> <p>◆ 児童生徒の科学的思考力・表現力の育成を目指し、言語活動の充実を図ることが課題です。</p>
2 問題解決の能力を育て、科学的な見方や考え方を養うための指導法の工夫に努める。	<p>○ 児童生徒の予想や仮説をもとに学習の見通しをもたせ、主体的に観察・実験に取り組むことができるよう意識し、工夫された授業が多く見られました。</p> <p>◆ 観察・実験に時間を要し、導入で立てた児童生徒の予想を生かし、考察するなどの時間が不足する授業も見られました。</p> <p>◆ 結果を分析して解釈し、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化するなど、言語活動の充実に向けた指導の工夫が必要です。</p>
3 よさや可能性を積極的に見いだし、伸ばす評価を工夫する。	<p>○ ワークシート等に観察・実験の記録だけでなく、自分の考えや感想等を記入させる授業が多く見られるようになってきました。</p> <p>◆ 科学的思考力・表現力の評価について、児童生徒のどのような姿や記述等を評価対象とすればよいかを明確にする必要があります。</p>

⑤ 生 活

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 児童の自ら考え判断し決定する資質や能力が育つように、2年間を見通した指導計画に改善する。	<p>○ 目標や育てたい力を明確にした指導計画や、地域や学校の実態を生かした特色ある単元・年間指導計画が作成されてきています。また、多様な人々との触れ合いや他教科との関連を考慮した単元構成の工夫がなされている学校も見られました。</p> <p>◆ 小学校教師が、幼稚園や保育所を参観する機会はまだまだ多いとは言えません。幼児教育が義務教育の基礎を培っているとの視点で、児童の発達の連続性を踏まえた指導計画の作成と、幼児期の教育との接続を意識したスタートカリキュラムの作成、他教科等との関連を図った指導計画の工夫が重要となります。</p>
2 児童が対象とのやりとりを通して、よりよく課題を解決することができ、そのような学習の展開を工夫する。	<p>○ 課題を解決していく過程において、話し合い活動の場を設定して、思考を促す働きかけを積極的に行うとともに、他者と交流して認め合ったり、活動や体験を振り返ったり、捉え直したりする活動を展開して、気付きの質を高めようとする授業が見られました。</p> <p>◆ 子ども自らが関わりながら活動を広めたり、深めたりすることができる授業づくりを進めるには、子どもとともに話し合い、選び、決定していくなど、子どもと学習計画を構築していく姿勢が大切となります。また、生活や出来事を伝え合う活動や交流する活動などを通して、多様な人々と触れ合うことも重要となります。</p>
3 児童一人一人の思いや願いの実現の程度を把握しながら指導に生かし、自信や意欲につなげる評価を工夫する。	<p>○ 評価の観点を基に具体的な評価規準や評価計画を設定し、そこでの気付きを、児童の表情や言動から見取り、それを全体に広げたり、次の学習に生かしたりしている授業が見られるようになってきました。</p> <p>◆ 発言やつぶやき、行動、作品等から、個々の内面、活動や体験の広がりや深まり及びその中での気付き等の進歩の状況を把握し、次の指導に生かしていくことが必要となります。そして、この自分自身への気付きを認めていくことで、一人一人の児童に自分のよさや可能性を実感させ、自信や意欲につなげていくことが重要となります。</p>

⑥ 音 楽 (小・中)

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 音楽活動の基礎的な能力を培う(伸長する)指導計画を作成する。	<p>○ 表現活動と鑑賞活動を組合せ、多様な活動を取り入れた実践が見られました。題材における評価計画を作成することにより、身に付けさせたい力や教材同士の関わりなどを明確に捉えて指導している実践が見られました。</p> <p>◆ 教科書の配列どおりに授業を進めていることが多く見られますが、表現活動と鑑賞活動のより密接な関連付けのためには、配列の検討が必要です。</p>
2 児童生徒が音楽活動を楽しみ、音楽活動の喜びを味わい、自ら進んで取り組めるような指導法を工夫する。	<p>○ 学習カードやフラッシュカードの掲示などで、授業で取り扱う「音楽を形づくっている要素」の日常的な意識化を図った授業が見られました。児童生徒が感じたことと要素とを結び付ける手立てを講じ、活動の質を高めようとする授業が見られました。</p> <p>◆ 児童生徒が音楽を聴取・知覚・感受する場面や音楽の価値付けを行う場面等において、「音楽を形づくっている要素」を十分に自覚できていない授業も見られました。〔共通事項〕の捉え方を改めて意識する必要があります。</p>
3 児童生徒一人一人の学びを支える適切な評価を工夫する。	<p>○ 児童生徒の音楽的な感受を「音楽を形づくっている要素」と結び付けて、そのよさを称賛したり個別指導に生かしたりする授業が見られました。</p> <p>◆ ねらいとまとめの整合性を図るために、学習内容の重点化・精選化が必要です。</p>

⑦ 図画工作、美術

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 表現及び鑑賞等の活動を通して、児童生徒の個性・創造性を伸ばすことを目指す。	○ 児童生徒に創造することの喜びを与える学習活動を設け、基礎的能力の育成を図る指導計画が作成された。 ◆ 児童生徒の個性・創造性を育むために、学校種別や学年(3学年間)の学習の見通しをもった指導計画を、さらに工夫・改善する必要があります。
2 児童生徒の感性を伸ばし、表現の楽しさを味わわせ、個性を伸ばすことを目指す。	○ 用具や材料を自分の構想に合わせ、表現の楽しさを味わわせ、個性を伸ばすことを目指す。 ◆ 児童生徒が技能に対して苦手意識をもっている場合、自ら判断や選択で制作にあたるよう工夫する必要があります。
3 児童生徒の意欲を引き出し、創造性を伸ばすことを目指す。	○ 創造活動の過程や完成後など、授業の中で効果的と思える場面や意欲が高められていたことを、自分ごとで伝え、児童生徒の意欲を引き出す工夫や教師の支援の在り方などの検討が必要です。
4 校内での適切な指導等を行うとともに、安全指導を行う。	○ 児童生徒の作品に紹介や評価を加えたり、鑑賞のため展示方法を工夫したりする取組が増えています。安全管理にも十分配慮が行われていました。 ◆ 図工室や美術室の環境は改善されつつありますが、整理整頓に努めるなど、さらに工夫の余地があります。

⑧ 体育、保健体育

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 12年間を見通した指導計画に基づき、児童生徒の体力向上を図る。	○ 新体力テストの結果や児童生徒の実態等を踏まえた体力向上計画が作成された。 ◆ 児童生徒の体力向上を図るために、準備運動や補強運動など、必要に応じて工夫すること。
2 主体的な学習を通して、児童生徒の健康を育て、基礎的な運動能力を向上させる。	○ 運動や運動身体づくりプログラム、主運動と関連した運動や用具、ルールの工夫、段階的な指導により、児童生徒の運動能力が向上している。 ◆ 12年間を見通したカリキュラムの基本戦略(4-4-4と12)を理解し、特に、発達段階のまとまりを確認すること。 ○ 保健や技能の授業において、養護教諭や栄養教諭などの専門的な知識や技術を生かした指導や、指導者やG.T.の活用が見られる。 ◆ 児童生徒の健康や安全に関する事項を、事前打合せや役割分担などを明確にして取り組む必要がある。
3 目標の実現状況を把握し、指導の充実を図る。	○ 単元の指導計画や評価計画・評価方法が明確になってきている。 ◆ 本時の目標や本時のめあて、学習過程における評価との整合性が図られるようにすることが大切です。
4 保健・安全指導の充実を図る。	○ 授業の最初と終わりにおける児童生徒の健康観察をしっかりと行っている。また、運動の苦手な児童生徒や前向きでない児童生徒への言葉かけや称賛、指示等も多く見られた。 ◆ 運動種目の特性から運動の負担が大きい種目や危険性の高い種目・運動の場合は、展開時にも健康観察を行うことが必要である。

⑨ 家庭、技術・家庭

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 家庭生活を総合的にとらえる視点や自立的に生きる基礎を培う観点から指導計画を改善する。	○ 2年間(3年間)を見通した指導計画となっており、指導後に実生活において体験させる取組を加える工夫が見られました。 ◆ 児童生徒の実態や題材の特性等を踏まえた指導計画の工夫・改善が必要です。
2 日常生活との関連を図り、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を充実する。	○ 生活を改めて見つめ直したり、生活を実感したりできる問題解決的な学習や実践的・体験的な活動を取り入れた授業が展開されていました。また、一斉指導や個別指導、グループによる活動と学習形態等も工夫されていました。 ◆ さらに、実践的・体験的な学習活動になるよう学習活動の内容吟味と実態に即した活動を工夫するとともに、本時のねらいと本時のめあて、学習過程における評価との整合性を図る必要があります。
3 学習指導に生きる評価に努める。	○ 達成基準のAとBを明確にするとともに、自己評価や相互評価の場を設定し、自分の課題や成長を把握できる評価を設定していました。 ◆ 指導と評価の一体化を図るため、評価の内容や方法の改善、具体的な評価計画の作成の工夫に努めることが大切です。
4 事故防止のため、安全管理と安全指導を徹底する。	○ 実習の指導については、衛生や事故防止に十分留意し、安全管理及び安全指導に配慮した授業の展開に努めていました。 ◆ 生肉・生魚等を取扱う場合は、食中毒予防のために細心の注意を図りながら授業を進める必要があります。

⑩ 外国語(英語)

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 3学年間を通して外国語(英語)の目標の実現を図るように、生徒や地域の実態に応じて系統的な指導計画を作成する。	○ 小学校外国語活動の指導内容と関連を図った活動で技能の更なる伸長を図る活動が見られました。 ○ 関連する技能を組み合わせた活動やまとめの活動でさらに技能を活用する場面を設けるなど効果的に統合を図っていました。 ◆ 小学校外国語活動の成果を効果的に活用するという視点から、小学校外国語活動の内容や指導方法及び生徒の実態を踏まえ、入学当初の指導を効果的に行う必要があります。
2 コミュニケーション能力の基礎の育成を目指し、生徒が主体的に学ぶことができる授業を展開する。	○ 単元や授業のねらいを明確にした取組が多く見られました。 ○ 言語活動を工夫する中で言語材料の定着や活用力の向上を目指す取組が見られました。 ◆ 生徒の学びの様子を見取りながら継続的に言語活動を仕組み、質的に充実させるとともに、身に付けた言語材料から適切なものを選択する能力、適切に使用する能力など、数多くの経験を通して身に付けさせたいものへの視点を持つことが大切です。
3 指導と評価の一体化を図る。	○ 教材や言語材料の特質、生徒の実態を踏まえた評価が行われていました。 ◆ 生徒の実態に応じるが故に、課題となる観点を重視する傾向があります。課題と共によさを生かす視点に立ち、バランスのとれた評価を実施する必要があります。

⑪ 道 徳（小・中）

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 学校や児童生徒の実態を踏まえた実効的な指導計画を作成するとともに、学校全体で取り組む推進体制を確立する。	○ 道徳教育推進教師を中心に全体計画や年間指導計画、学級における指導計画を作成して、日常的に改善を図っていました。全体計画では別業につながる取組も見られました。 ◆ 実践の成果と課題を十分反映させ、各校の実態に合った指導計画が必要です。
2 道徳教育の「要」としての役割を踏まえ、道徳の時間における多様な指導方法・指導体制等を工夫し、道徳的实践力の育成を図る。	○ 発問の精選や展開の工夫等により、心に響く授業が行われていました。 ◆ 授業力向上や道徳教育の推進のためには、校内研修や授業の公開をさらに進める必要があります。 ◆ 自分の考えを確かめたり、自分自身の道徳的成長を実感したりできるよう、道徳における言語活動の充実を図る必要があります。
3 家庭、地域社会等との連携を図りながら、開かれた道徳教育をさらに推進する。	○ 授業参観で道徳の授業を公開する学校が多く見られるようになりました。また研究授業を小中で公開するなど校区を中心とした連携も見られました。 ◆ 学校と保護者・地域との双方向の連携については今後も取り組んでいく必要があります。

⑫ 外国語活動

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 外国語活動の目標と趣旨を的確に捉え、児童や地域の実態に応じて、各学年の目標を適切に定め、2学年間を通して目標の実現を図るよう指導計画を作成する。	○ 中学校外国語科と共通した題材・言語材料・使用場面を中心に、接続を意識した取組が見られました。外国語に親しんでいることが中学校外国語科への学習の動機付けとなっています。 ◆ 内容相互の関連や学びの段階を意識した指導計画を作成することで、さらに充実した学習が展開できます。
2 外国語で積極的にコミュニケーションを図りながら、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や表現に慣れ親しむよう児童主体の授業を展開する。	○ 教師による演示や具体物の提示が効果的に行われ、コミュニケーション活動の内容・方法を明確にすることで、児童が取り組みやすくなっています。その中で教師が適切に関わることで気付きや理解を促していました。 ◆ コミュニケーション活動の前に、気付きや理解を促す授業が見られましたが、児童の学びに応じて振り返りの場面や活動の中など、授業者が効果的であると判断できる場でも行われる必要があります。
3 指導と評価の一体化を図る。	○ 授業の振り返りも兼ねて、学習を自己評価する時間を設けていました。評価項目も児童や学校の実態を考慮したものとなっています。 ◆ 個々の児童の学びをよりの確につかむ必要があります。そのために教師のきめ細やかな見取りが必要です。活動場面での表面的な評価で終わらせず、活動や学びの場面で適切に関わりながら評価・支援することが大切です。

⑬ 総合的な学習の時間（小・中）

指導の重点	「成果」(○) と「課題改善のポイント」(◆)
1 児童等が、 地帯に、 域生を、 や徒を、 学計を、 校実作、 態色や成	○ 児童等が、地帯に、域生を、や徒を、学計を、校実作、態色や成 ◆ 児童等が、地帯に、域生を、や徒を、学計を、校実作、態色や成
2 児童等が、 地帯に、 域生を、 や徒を、 学計を、 校実作、 態色や成	○ 児童等が、地帯に、域生を、や徒を、学計を、校実作、態色や成 ◆ 児童等が、地帯に、域生を、や徒を、学計を、校実作、態色や成
3 児童等が、 地帯に、 域生を、 や徒を、 学計を、 校実作、 態色や成	○ 児童等が、地帯に、域生を、や徒を、学計を、校実作、態色や成 ◆ 児童等が、地帯に、域生を、や徒を、学計を、校実作、態色や成

⑭ 特別活動 (小・中)

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 各学校の課題に基づき、創意工夫を生かして指導計画を作成する。	○ 研究会や研修会等を通して、特別活動についての理解を深めながら、自校の実態を踏まえた指導計画の作成に取り組んでいます。 ◆ 児童生徒及び学校、地域の特色を生かしながら、異年齢集団による活動や多様な体験活動等、人間関係づくりや社会性の育成を明確にした指導計画を作成することが大切です。
2 児童生徒による自主的な活動の充実を図るための指導方法を改善する。	○ 指導方法に関する研究会や研修会を通して、自主的、実践的な活動が充実するよう研修を深めています。 ○ 学級活動では、段階を踏んだ話し合い活動のスキルアップを目指した授業実践が増えています。 ○ 児童会・生徒会活動では自校の課題解決に向けて主体的に学校行事やボランティア活動に取り組む例が増えています。 ○ クラブ活動(小学校)では、教師の適切な指導の下、互いに協力し、充実した活動を展開する学校が増えています。 ○ 学校行事では、内容の精選を図り、特色ある交流や体験活動を展開する学校が増えています。
〔各内容〕 ○ 学級活動	◆ 多面的な児童生徒理解、望ましい人間関係づくり、自己肯定感の高揚等、教育相談の手法を生かした多様な指導方法を構築することが望まれます。
○ 児童会・生徒会活動	◆ 学級活動では、行事等の目的や意義等を十分に理解させた上で、話し合い活動を展開する等、目的的に言語活動を進めていくことが大切です。
○ クラブ活動(小学校)	◆ 児童会・生徒会活動では、多様な体験活動を通して、リーダーシップとフォロアーシップを育成することが大切です。
○ 学校行事	◆ クラブ活動では、計画や運営、発表の機会を通して、活動意欲を一層高める手立てを図っていくことが大切です。 ◆ 学校行事では、さらに各段階での意味付けや価値付けを意図的に行うなど、指導の手立てを図っていくことが必要です。

(2) 各種教育

① 生徒指導 (小・中)

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 自校の実態に即した具体的な指導計画に改善し、機能的な生徒指導体制を確立する。	○ 自校の課題を明確にして共有化を図り、課題解決に向けた指導計画の見直しが図られています。 ◆ 自校の課題解決に向けて、SCやSSWの有効活用等を視野に入れた具体的な指導計画を作成していく必要があります。
2 教育活動全体において、すべての児童生徒に積極的な生徒指導を進める。	○ 授業を柱に、自己決定の場を取り入れたり、自己存在感を実感させたりするなど、生徒指導の機能を生かした実践が増えてきています。 ◆ 児童生徒一人一人の思いや心情に寄り添った指導を通して、より温かい学級の雰囲気醸成していく必要があります。
3 教育相談の充実を図る。	○ SCからコンサルテーションを受け、関係機関や地域と連携した取組が多く見られるようになってきました。 ◆ 教育相談担当者が中心となり、教職員の連携が図られた実効ある教育相談体制を確立していく必要があります。
4 いじめ等の問題行動等の未然防止と早期解決に努めるとともに、問題行動発生の的確な対応に努める。	○ 日常の観察、諸調査やSC活用等による実態把握に基づき、早期発見・早期解決に向けた取組が増えていきます。 ◆ 学校、保護者、地域等が一層連携して、早期発見・早期解決に向けて対応できる組織体制を確立する必要があります。

② キャリア教育 (小・中)

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 学校や児童生徒の現状を把握し、目標を立て、課題を明確にして指導計画を作成・改善する。	○ 総合的な学習の時間や特別活動などを中心にキャリア教育の視点を踏まえた取組が行われています。各教科等の教育活動を踏まえた全体計画や年間指導計画の作成も進められてきています。 ◆ 学校として統一感のある指導や進路指導に偏り過ぎないキャリア教育の視点を踏まえた指導を今後も継続する必要があります。これまでの教育活動、地域人材や素材を活用した、実態に合った指導計画に改善していくことが望まれます。
2 キャリア教育の推進組織・体制を確立し、共通理解に立った指導に努める。	○ 校務分掌において、各担当者の指導の下で集団の一員としての役割を自覚させる実践が見られました。 ◆ 教員間での情報共有や組織的にかかわる機会を設けるなど、組織的な指導力の向上にさらに努めていくことが望まれています。
3 学校、家庭、地域・社会や関係諸機関との連携を一層強化する。	○ キャリア発達に関する取組が継続的に行われ、自校化が図られつつあります。それに伴い児童生徒の学びの見取りや評価が行われています。 ◆ 児童生徒のキャリア発達に関する情報については、その実践の工夫改善に関する情報とともに確実に引き継ぎ、支援や計画作成につなげていくことが大切です。

③ 図書館教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 学校図書館の活用を図った指導計画を作成・改善する。	<p>○ 各教科等の学習において、学校図書館の活用が図られるように指導計画の改善が進んでいます。また、国語科における並行読書の取組により、児童生徒の読書の意欲の高まりが見られました。</p> <p>◆ 児童生徒の委員会活動とかかわらせながら、推薦図書について工夫した掲示を行ったり、読書コーナー等の設置をしたりして、さらに読書活動を推進していく必要があります。</p>
2 蔵書や資料等の充実を図り、学校図書館の機能や役割を児童生徒に実感させる整備充実を図る。	<p>○ 児童生徒の情報収集や学習活動に役立つ学習・情報センター、読書センターとしての学校図書館づくりに努めている学校が多く見られました。</p> <p>◆ センターとしての取組を充実させていくとともに、児童生徒の声を生かした司書教諭、学校司書の更なる積極的活動や児童生徒への働きかけが求められます。</p>

④ 人権教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 人権を尊重する意識を高め、教育指導法・内容を明確にする。	<p>○ 道徳の時間との関連を図るなど、それぞれの諸活動の特質を生かしつつ学校の教育活動全体で指導を進めようとする意識が高まってきました。</p> <p>◆ 人権感覚の涵養に向け、各教科等においても人権教育との関連を意識した指導が必要です。</p>
2 学校生活の中で人権尊重の感覚を身に付けることができよう児童生徒のよさや可能性を尊重した指導を工夫する。	<p>○ いじめに関する法体制の整備に伴い、各学校においていじめの重大性についての知的理解を図る指導が進められています。</p> <p>◆ 個性や差異を尊重する態度やその基盤となる価値観を育てる指導を推進するとともに、互いを思いやり、尊重し、生命や人権を大切にしたい意欲や態度などについての指導を通して、人権意識が芽生えるようにすることが大切です。</p>
3 指導の効果を高めるための評価を工夫する。	<p>○ 学校関係者評価等により、保護者が子どもに望む育てたい資質等を把握する試みが見られました。</p> <p>◆ 児童生徒の変容等を学校・保護者間で共有し、指導改善に生かすことが大切です。</p>

⑤ 環境教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 総合的・系統的な指導計画を作成する。	○ 児童生徒にとって身近なことと将来のことを結び付けて考えることができるような指導が行われていました。 ◆ 復興の過程にある本県において、環境教育は児童生徒にとって切実な問題です。だからこそ、実感の伴った環境教育の在り方について考えることが必要です。
2 児童生徒が主体的に考え判断し行動できる資質や能力を高める指導を工夫する。	○ 現状についての正しい情報をもとに、自分たちができる身近な環境問題への取組について考えさせ、自己判断し行動できるような取組が学校、家庭、地域に浸透しつつあります。 ◆ いまだに環境放射線の問題等で、児童生徒の屋外の活動については心配な点も多いですが、そうした中でも工夫しながら、活動の幅を広げている取組が見られます。今後は、そのような取組をさらに広げていくことが求められます。

⑥ 情報教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 情報化に対応した教育を推進するために、指導体制の充実を図る。	○ 情報機器を積極的に活用し、授業を行う学校が増えています。また、教育の情報化を促進する委員会での話し合いが充実しています。 ◆ 授業のねらいを確認し、ねらいに沿った情報機器の活用を行う必要があります。授業の学習課題を解決するためのツールとしての役割を明確にし、どのような可能性があるのかを教員間で確認する必要があります。
2 児童生徒の主体的な学習活動を支援するコンピュータ等の活用を工夫する。	○ インターネットを利用する上でのルールやマナー、またSNSを利用する上での危険性に関する情報モラルの基礎的な理解については、各学校で実施しています。 ◆ モバイル機器を含めた、効果的な利用方法やSNSを利用する上での具体的な事例の累積等が必要です。

⑦ 国際理解教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 学校や地域の実態に応じて、特色ある指導計画を作成する。	○ 関係機関との連携や地域素材の活用など、総合的な学習の時間と教科を関連付けた特色ある指導計画が見られました。 ◆ 国際理解教育の趣旨と今日的な意義の理解をさらに深めることが大切です。各教科等と国際理解教育との関連をさらに意識することで、より効果的な指導・支援に結びつきます。
2 我が国の文化と伝統の理解に立ち、広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。	○ 地域の文化と伝統について理解する機会が確保され、それらを継承する主体としての意識を高めようとする取組が見られました。 ◆ 各教科等の該当する分野・単元において人権や国際協調に触れています。さらに中心となるような学習機会を計画的に位置付けることが必要です。
3 外国の人々との相互理解を深める交流の場と機会を拡充し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と態度を育てる。	○ ALTを活用した授業や学校生活での交流を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と態度を育成する取組が多く見られました。 ○ 自分はどのように感じたのか、相手はどうだったのかなど考えや意見を持ち、伝え合う活動が多くの教科・領域で見られました。 ◆ 国際理解教育の趣旨を踏まえ、相互理解・尊重をさらに図っていくことが大切です。

⑧ へき地・小規模学校教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 児童生徒の実態を色生踏まえ、学校の特性をかした指導計画に改善する。	○ 児童生徒の実態を十分に把握し、実態に応じた指導計画を立てています。体験活動や言語活動のを計画的に取り入れて、単元を通して思考力・判断力・表現力の育成を図ろうと努力しています。 ◆ 合理化の意識が強いと指導計画も簡略化されがちです。学校課題にきちんと対応した指導計画の自校化を目指す必要があります。
2 児童生徒一人一人の特性を生かした教育活動を展開し、授業の充実を図る。	○ 児童生徒の主体的な学習態度の育成に向けて、授業と家庭学習の連動を図ったり、学習過程や学習形態を工夫したりする取組が多く見られました。 ◆ ワークシート等学習に使用する学習材の準備がよくなされているものの、ノート指導についてはさらなる工夫と改善が必要です。
3 児童生徒の自己実現を図る評価を工夫する。	○ 評価規準の設定と活用により、指導と一体化した評価に努めていました。また、児童生徒の自己評価や相互評価が工夫され、学びを実感させる評価が行われていました。 ◆ 児童生徒に自己の成長と課題等を強く意識付ける教師の評価方法の工夫が必要です。

⑨ 健康教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
【保健】 1 保健学習・保健指導の充実を図り、健康を保持増進するための実践力を育成する。 2 健康相談・個別指導の充実を図り、個別の健康課題解決のために支援する。	○ 自校の健康課題を明確にし、発達段階に応じて指導するとともに、数値的目標等を掲げ、学校全体で課題解決に取り組んでいます。また、家庭や関係機関との連携を図り、計画的かつ継続的な取組を行っています。 ◆ 保健学習・保健指導の取組を長期休業中にも継続するための工夫が必要です。 ○ 年度当初、自校の現状と課題について学校全体で共有化を図り、目標を明確にして課題解決に取り組んでいました。また、自己課題については、個票による通知や健康相談の充実に努めています。 ◆ 学校・家庭が一体となった健康教育活動の推進が必要です。特に、学校保健委員会の組織を効果的に機能させる必要があります。
【安全】 安全指導の充実を図り、危険を予測し、回避する能力を育成する。	○ 震災の教訓により、地震発生時等におけるマニュアルの見直し・改善が図られています。また、避難訓練においても、保護者引き渡し訓練や二次災害を想定した訓練、抜き打ち訓練、地域と一体となった訓練等が実施されています。 ◆ マニュアルの見直し・改善を行うとともに、各学校の実情に応じた実効性のある取組を工夫する必要があります。
【食育・学校給食】 「ふくしまっ子食育指針」に基づき、「食べる力」「感謝の心」「郷土愛」を育成する。	○ 児童生徒と保護者への「早寝・早起き・朝ごはん」の推進を図るとともに、食に関する授業も意欲的に実践されています。 ◆ 食育推進のための学校における給食の時間のさらなる効果的な活用と学校全体で共有化を図るとともに、家庭の理解と啓発を図ることが大切です。

⑩ 防災教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 児童生徒が主体的に行動する態度を身に付けるための計画の充実を図る。	○ 各学校とも自校の防災等マニュアルの見直し・改善が図られ、安全に関する学習や指導、訓練等が行われていました。 ◆ 教育課程に位置付けた計画的かつ継続的な防災教育とともに地域を巻き込んだ防災体制づくりと訓練が必要です。
2 児童生徒が状況に応じ、主体的に考え判断し行動する態度や能力を高めるための指導の充実を図る。	○ 学校安全計画等に沿って、各教科や総合的な学習の時間、特別活動において、災害等についての知識を学ぶとともに訓練が実施されていました。 ◆ 訓練においては、マンネリ化を防止するとともに、学校や児童生徒の実態、地域の実態・実情に応じた訓練や教科等で学んだことを生かすことなど工夫が必要です。
3 安全で安心な社会づくりにも貢献する意識を高める指導を工夫する。	○ 廊下や階段などの避難経路に不必要な物を置かない等、校舎内が整理・整頓されていました。また、通学路の点検や危険箇所等の把握と修繕を適宜行っていました。 ◆ 自分の身の回り、地域の実態や様子を把握し、自ら安全確保の仕方や方法・対応などの意識を高めるとともに、児童生徒も地域社会の一員として、社会貢献や社会参加に関する場をもてるよう発達段階に応じて指導計画に位置付けていく必要があります。

⑪ 放射線教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○)と「課題改善のポイント」(◆)
1 学校や地域の実情及び児童生徒の実態に応じた指導計画及び指導内容を工夫し、実践する。	○ 各学校の実情や児童生徒の実態、発達段階に応じて、学級活動や理科を中心に2時間から4時間程度放射線教育が行われました。 ◆ 県の放射線指導資料等をもとに継続的かつ計画的に指導していく必要があります。
2 放射線等の基礎的な性質について身に付けさせ、自ら考え、判断する力を育む指導法を工夫する。	○ 県の放射線指導資料や文部科学省の「放射線等に関する副読本」及び「県災害対策本部のパンフレット」等を基に、放射線教育が実施されていました。 ◆ 県の放射線指導資料等のさらなる効果的な活用が必要です。
3 放射線から身を守り、健康で安全な生活を送ろうとする意欲と態度を育てる。	○ 各学校の実情や児童生徒の実態、発達段階を踏まえて指導内容の重点化を図り、「放射線等に関する知識を得るための学習内容」と「放射線等から身を守るための内容」の両面から指導を展開していました。 ◆ 自ら考え判断し、行動できる児童生徒の育成を教育活動全体で充実していく必要があります。